

ダイズの病害虫を同時に防除できる新規薬剤チアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤（商品名：クルーザーMAXX）

古川農業試験場

1 取り上げた理由

ダイズの病害虫による被害は播種直後から認められ、立枯性病害では出芽不良や生育期の立枯症状を、虫害では葉の食害や黄化、子実の食害や腐敗、着色などを示す。新たに開発されたチアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤（商品名：クルーザーMAXX）は、本剤でのみで数種の立枯性病害や害虫に対し高い防除効果が認められたことから普及情報とする。

2 普及情報

- 1) チアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤の種子塗抹処理は、茎疫病、紫斑病、苗立枯病に対し高い防除効果を示す（図1）。
- 2) 本剤の種子塗抹処理によりアブラムシ類（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、フタスジヒメハムシに対し高い防除効果を示す（図2）。

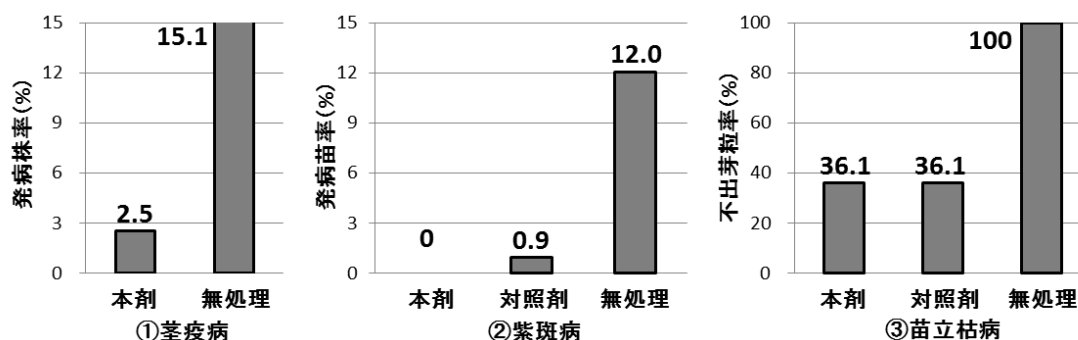


図1 チアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤の数種立枯性病害に対する抑制効果

注1) 古川農業試験場での効果確認試験（茎疫病H20，紫斑病H22，苗立枯病H22）

注2) 紫斑病は罹病種子を100%供試した場合の試験，苗立枯病は甚発生条件での試験

注3) 対照剤はチウラム水和剤（商品名：キヒゲンR2フロアブル）を用いた。

3 利活用の留意点

- 1) 本剤は、上記病害虫の他、黒根腐病に対しても防除効果が確認されているほか、本剤のみで数種の病害虫に対して防除効果が確認されている（表1）。
- 2) 使用に当たっては最新の登録情報を確認する。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

種子塗抹殺菌剤による出芽，初期生育安定効果の確認（H21年度）

新農薬による病害虫防除に関する試験（H22年度）

2) 参考データ

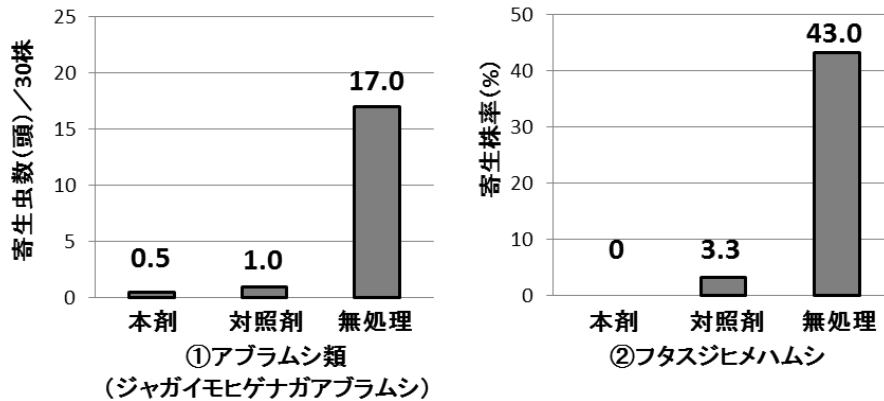


図1 チアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤の虫害に対する抑制効果

注1) 古川農業試験場での効果確認試験（アブラムシ類H19，フタスジヒメハムシH23）

注2) アブラムシ類は有翅成虫，無翅成虫，幼虫の合計数。処理39日後の寄生虫数を示す。

注3) フタスジヒメハムシは処理18日後の寄生株率を示す

注4) 対照剤はチアメトキサム水和剤（商品名：クルーザーFS30）を用いた。

表1 チアメトキサム・メタラキシルM・フルジオキシニル水和剤のダイズにおける適用病害虫と使用方法(2013年2月現在)

適用病害虫	処理濃度	処理方法	処理時期	回数	処理量	総使用回数		
						チアメトキサム	フルジオキシニル	メタラキシルおよびメタラキシルM
茎疫病	原液	塗沫処理	は種前	1回	乾燥種子 1kgあたり 8ml	3回以内 (但し、は種前の塗沫処理は1回以内、 は種後は2回以内)	1回	4回以内 (但し、種子粉衣及びは種前の塗沫処理は合計1回以内、 は種後は3回以内)
紫斑病	原液	塗沫処理	は種前	1回				
苗木枯病(ピシウム菌)	原液	塗沫処理	は種前	1回				
リゾクニア根腐病	原液	塗沫処理	は種前	1回				
黒根腐病	原液	塗沫処理	は種前	1回				
アブラムシ類	原液	塗沫処理	は種前	1回				
フタスジヒメハムシ	原液	塗沫処理	は種前	1回				
ネキリムシ類	原液	塗沫処理	は種前	1回				
タネバエ	原液	塗沫処理	は種前	1回				

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) ダイズ紫斑病罹病種子が紫斑粒の発生に及ぼす影響（普及に移す技術第81号参考資料）

b) ダイズのフタスジヒメハムシに対するチアメトキサム水和剤の種子塗沫処理の効果（普及に移す技術第83号普及情報）